

東京DWAT（東京都災害派遣福祉チーム）

令和7年台風22号・23号に伴う 八丈島における活動報告



<東京都災害福祉広域支援ネットワーク 事務局>



報告内容

1. DWATとは
2. 八丈島について
3. 八丈島におけるDWAT活動
4. 活動成果と今後に向けた課題

1. DWATとは



- 平成30年5月に厚労省から出された「災害時の福祉支援体制の整備について」の通知やガイドラインに基づき、都道府県ごとに災害福祉支援ネットワークの構築および**災害派遣福祉チーム（DWAT：Disaster Welfare Assistance Team）**の組成が進められた。
- チーム員は、福祉施設や病院などで勤務する**社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員（ケアマネジャー）、医療ソーシャルワーカー、保育士などの福祉専門職**で構成される。
- 災害時には、被災自治体からの要請に基づき、一般避難所、福祉避難所等へ派遣され、要配慮者のアセスメントや相談支援、避難所内の環境整備などの支援を行う。
- 令和6年能登半島地震の教訓等を受け、令和7年5月に災害対策基本法等が一部改正された。それに伴い、DWATの支援対象が、避難所等の「場所」を中心としていた従来の考え方から、**在宅避難者や車中泊避難者等を含むすべての「人」を対象とする**考え方に転換され、DWATの支援対象が拡充された。

●東京DWAT（東京都災害派遣福祉チーム）は、令和4年度末に東京都福祉局が設置し、事務局を東京都社会福祉協議会が担っている。

●東京DWATの登録チーム員数は**637名**（令和7年12月末時点）。

●令和6年能登半島地震では、東京DWATは輪島市内に7クール30名のチーム員を派遣。災害福祉支援ネットワーク中央センター（全社協）の指示のもと、47都道府県すべてのDWATが石川県内の一般避難所等で活動を展開した。

●八丈島への派遣は東京DWATとして2回目の派遣であり、東京単独の活動としては初めて。

●八丈島での活動は、静岡県牧之原市の竜巻災害を受け令和7年9月～10月に静岡DWATが実施した活動を参考にし、法改正後にDWATが在宅支援を実施した2例目の活動となった。

東京DWATチーム員登録状況（R7.12）

■ 保有資格別登録者数 (※重複者あり)

保有資格	人数
社会福祉士	199
介護福祉士	349
精神保健福祉士	73
介護支援専門員	164
介護職員初任者研修	45
保育士	57
理学療法士	2
作業療法士	1
言語聴覚士	2
保健師	4
看護師・准看護師	35
公認心理士・臨床心理士	13
防災士	23

(その他：栄養士、教員、歯科衛生士、手話通訳士、弁護士、柔道整復師、他)

■ ブロック別登録者数

ブロック	人数
中央	29
城東	95
城西	106
城南	79
城北	31
南多摩	68
北多摩南部	51
北多摩西部	20
北多摩北部	42
西多摩	77
島しょ	2
都外	7
勤務地不明	24

■ 年度別登録者数

年度	人数
第一期(令和4年度)	19
第二期(令和5年度)	99
第三期(令和6年度)	134
第四期(令和7年度)	384

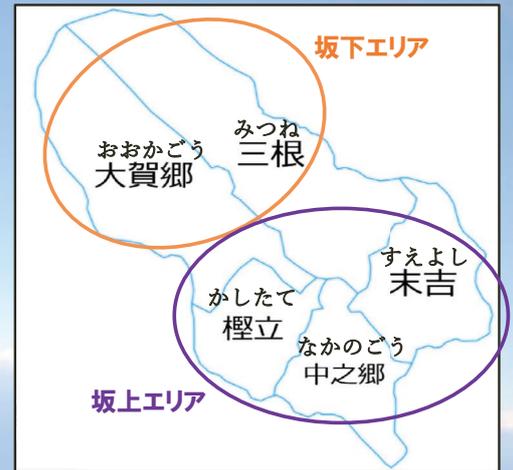
■ 総登録者数

男性	393 人
女性	244 人
登録者数	637 人
(平均年齢)	47.4 歳

2. 八丈島について



- 八丈島は、東京都の南方海上286kmの伊豆諸島に位置し、東西にふたつの火山をもつ面積69.11km²のひょうたん型をした島である。
- 島内は5つの地域に分かれており、さらに、大賀郷・三根地区は「坂下」地域、檜立・中之郷・末吉地区は「坂上」地域と呼ばれている。
- 人口は6,674人（令和7年12月1日時点）で、高齢者（65歳以上）の割合は、人口の約4割。
- 令和7年10月9日、最大瞬間風速54.7m、24時間の降水量356.5mm（八丈町で観測史上1位）を観測した台風22号が伊豆諸島を通過し、特に八丈島および青ヶ島にて被害が発生。暴風雨で建物やインフラ設備が破損し、一部地域では大規模な土石流災害も発生した。また、翌週の13日には台風23号も発生し、さらに被害が拡大した。



◆台風22号・23号による主な被害状況

- ・倒木による家屋の損傷
（*写真：上段左）
- ・末吉地区の避難所内に流れ込んだ大量の土砂
（*写真：上段右）



- ・坂上地域の土砂災害
（*写真：下段）

【家屋の被害（※投影のみ）】



【家屋の被害（※投影のみ）】



3. 八丈島におけるDWAT活動



◆活動期間

(※現地調査：10月24日(金)～10月25日(土) / 都1名・東社協1名・チーム員1名)

第1クール：11月17日(月)～11月20日(木) / 5名

第2クール：11月20日(木)～11月23日(日) / 5名

第3クール：11月23日(日)～11月26日(水) / 4名

第4クール：11月26日(水)～11月29日(土) / 5名

【活動日数：13日間、派遣人数：19名】

◆活動内容

被災者の自宅を訪問し、生活課題を捉えるニーズアセスメントを行い、その情報を八丈町の関係機関につなげることを目的に活動。八丈町から罹災証明の発行者リストを共有いただき、準半壊以上の判定が出ている世帯を中心に訪問。さらに、訪問先の周辺世帯にもお声がけしたり、関係機関（地域包括、社協、保健所、都八丈支庁など）からの情報提供をもとにアウトリーチを行った。

◆活動拠点

八丈町保健福祉センター 2階 会議室（※1階は八丈町社協）

◆派遣メンバー

今回は、各クールにケアマネジャー、MSW、社協職員を配置し、多様な職種でひとつのチームを編成した。

～ 台風22号・23号により被災された八丈島の皆様へ ～

とうきょう ディーワット
東京 DWAT が

みなさま こまじり おきき
皆様のお困りごとをお聞きします

この度は、台風22号・23号により被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。
発災から1か月が経過し、あらためて、大きな被害を受けた住民の皆様へ現在のお困りごとがないかお話を伺うために、東京都災害派遣福祉チーム(東京 DWAT)が八丈町福祉健康課からの依頼を受けて巡回しています。
「からだ」や「こころ」の健康に関すること、台風で被害を受けた住宅のことなど、生活上のお困りごとを福祉専門職がお聞きし、八丈町の関係機関などにつなげてさせていただきます。

◆東京 DWAT(ディーワット)とは
Disaster Relief Assistance Team(災害派遣福祉チーム)の漢文字をとって、DWAT(ディーワット)と呼んでいます。
東京都内の福祉施設や病院などで勤務する福祉専門職(社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、ケアマネジャー、保育士など)により構成された災害派遣福祉チームです。東京都が設置し、東京社会福祉協議会が事務局を担っています。
災害時には、被災自治体からの依頼を受けてチームを派遣し、被災者の「こころ」と「からだ」の状態を確認し、必要な機関につなげる活動を行います。

黄緑色のベストを着た隊員が11月29日まで巡回しています。見かけたらぜひお声がけください!

ディーワット
東京都災害派遣福祉チーム(東京 DWAT)

【所 管】 東京都福祉局 総務部総務課 庶務担当 (TEL:03-5388-3934)

【事務局】 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 福祉部 経営支援担当
TEL:03-3268-7192 E-mail:saigai@fukushi@tcsw.tvac.or.jp

<ご相談先> ☎070-4361-5470 (対応時間:9時～16時)
※対応期間:11月17日(月)～11月29日(土)

島民に配布したチラシ

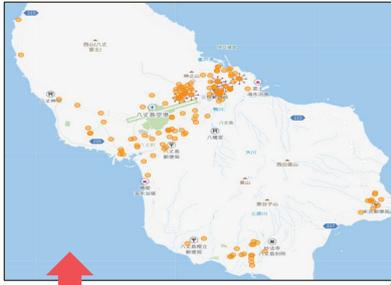
◆Kintoneの活用

サイボウズ社の協力により、活動初日からキントーンを活用し、罹災証明の情報提供（町→DWAT）、アセスメントした情報の管理・共有（DWAT⇄八丈町関係機関）、活動日報の共有（DWATチーム内のみ）などをすべてキントーン上で管理。

↓活動中の様子



↓かんたんマップ画面





STEP 1
役場から罹災証明の発行者リストをExcelでもらい、「罹災証明」アプリに読み込む

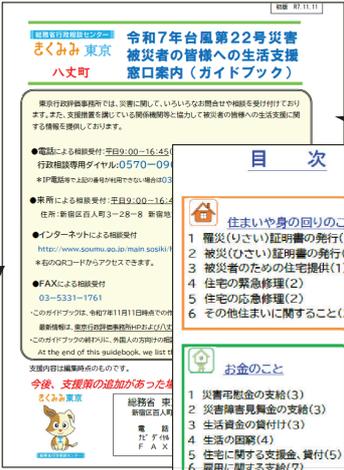
STEP 2
データを「住民調査」アプリへ移行

STEP 3
「かんたんマップ」アプリと連携し、スマホで位置情報などを確認しながら訪問。さらに、スマホを使って移動中や帰所後にアセスメント内容をキントーンへ入力（音声入力も可）。

↑ Kintone画面

◆持参したチラシ等

No	内容	対象
1	東京DWATチラシ	全世帯
2	東京DWATチラシ(不在時投函Ver.)	全世帯
3	被災者向け生活支援制度ガイドブック「きくみみ東京 八丈町」	全世帯
4	八丈町社協 あすなる（災害ボランティアセンター）のチラシ	ボランティアニーズのある世帯
5	島しょ保健所のチラシ（こころの相談窓口等）	精神的ケアニーズのある世帯



令和7年台風第22号災害被災者の皆様への生活支援窓口案内（ガイドブック）

- 被災者向けの支援制度が網羅されている
- DWAT活動時はちょうど全戸配布が始まったタイミングだった

●上記の他、チーム員用の資料として、アセスメントシート（キントーン入力用のメモとして）や、島内の保健・医療・福祉の資源情報をまとめた冊子なども活用。

活動中の連絡には派遣者専用の「LINEオープンチャット」を活用。第1クールから第4クールまですべてのメンバーが参加し、適宜情報共有を行った。

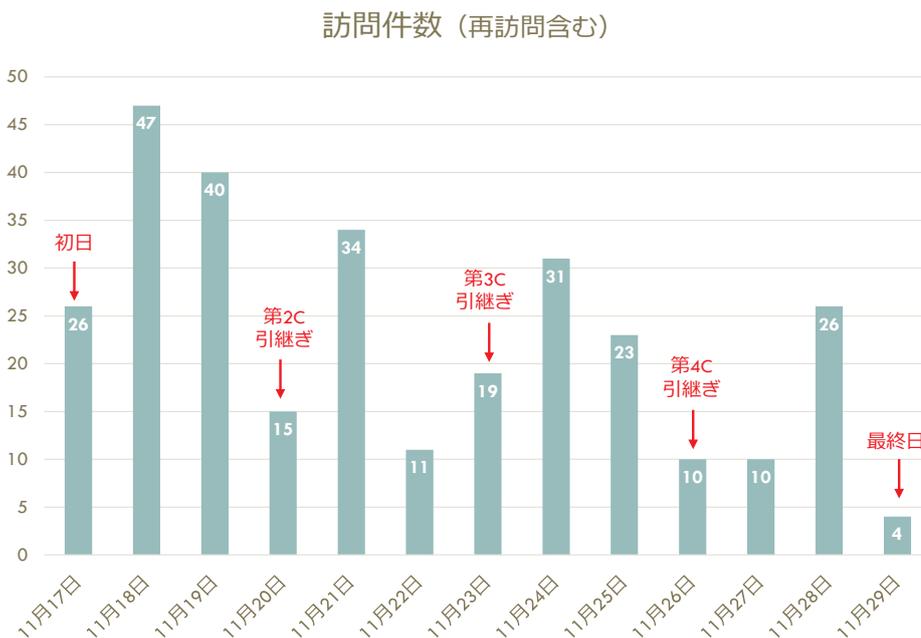
◆ 1日のおおまかな流れ

- 08:15 ホテル 発
- 08:30 活動拠点着 → 活動準備
- 09:00 DWAT朝礼
- 09:30 訪問調査開始
- 11:30 午前の調査終了 → 拠点へ帰還
- 12:00 昼食休憩（午前の活動を共有）
- 13:00 訪問調査再開
- 15:30 午後の調査終了 → 拠点へ帰還
- 16:30 **DWAT夕礼**
 （*役場・保健所・社協等が毎日出席。
 リーダーが会議を進行し、活動報告
 やケースの共有を行う）
- 17:00 DWATのみで打ち合わせ
 （*振り返り、日報作成、翌日の活動
 準備等を行う）
- 18:00 活動終了 → ホテルへ



DWAT夕礼の様子

◆ DWAT訪問件数推移（11/17～11/29）



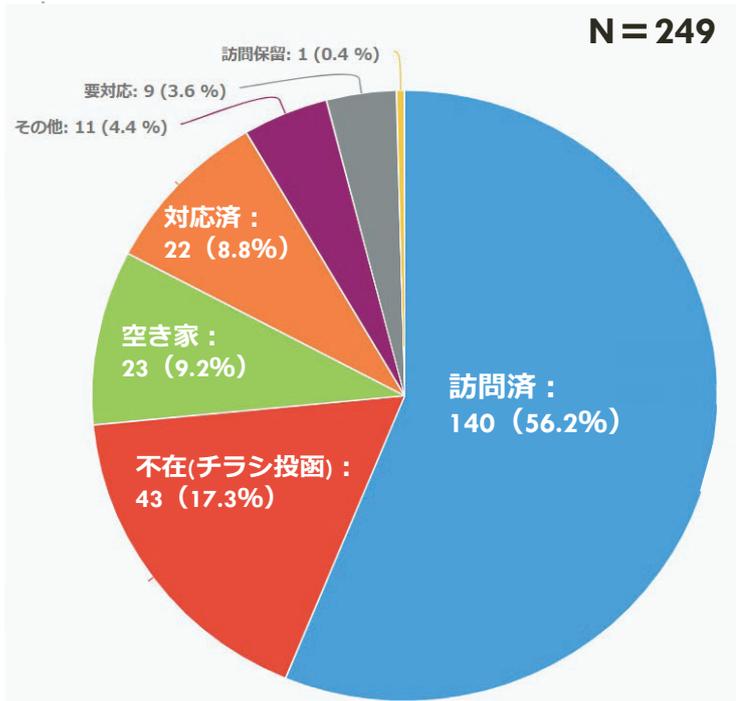
* 調査件数（世帯数）は 249 件。

* 2回目以降の訪問も含む

総訪問件数は、296 件。

* 第1・第2クールでは、スクリーニングを意識してアセスメントを進め、第3・第4クールでは、新規訪問も実施しつつ、要対応ケースをより詳細にアセスメントするために、再訪問も実施した。

◆DWA T訪問調査結果（11/29時点）



- 訪問済：特段問題が見受けられなかったケース。
- 要対応：関係機関へつなげたケース。全体で約30件上がったが、DWATによる対応が完了したケースは「対応済」に変更しているため、11/29時点では残り9件となっている。
- 対応済：DWATによる対応が完了したケース。

*罹災証明発行者リストをもとに訪問したのは146件。残りの103件は、訪問先で声をかけた近隣世帯や、役場・社協・民生委員から情報提供いただいた世帯。

*不在世帯にはチラシを投函したが、チラシを見てお電話くださった世帯は1件のみであった。

◆活動の経過

	八丈島の状況等	東京DWA T
10/9(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風22号直撃、避難所6か所 ・全域で大規模な停電と断水が発生 	東京都：情報収集、DWA Tに関する情報提供 東社協：主に福祉施設や社協の情報収集
10/12(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風23号直撃、避難所3か所 (末吉地区の住民は八丈高校へ一斉避難) 	
10/14(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所2か所（八丈高校、おじゃれホール） ・停電：約500軒、断水：ほぼ全域 	
10/18(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所2か所閉鎖 →17世帯22名がホテルへ2次避難 ・停電：約35軒、断水：ほぼ全域 	
10/24(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・停電：26軒（うち住家3軒） ・断水：約1,040世帯 ・ホテル2次避難：16世帯20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査班3名を派遣（～10/25）。サイボウズ社 柴田氏（ICT支援）も同行。 ・被災状況等の情報収集するとともに、DWA Tの支援活動等を説明。
10/30(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・停電：24軒（うち住家3軒） ・断水：全域で約520軒 ・ホテル2次避難：15世帯19名 	
10/31(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・罹災証明 発行開始 	

	八丈島の状況等	東京DWA T
11/6(木)	・八丈町・東京都・東社協の3者でオンライン会議を行い、派遣要請の内容等を確認。	・派遣調整開始 →11/12(水)までに全派遣者を決定
11/13(木)	・ホテル2次避難：7世帯10名 ・停電：山間部の一部のみ停電(約2軒) ・水道：11軒断水(うち居住家3軒) ・罹災証明：調査済約750件、発行済約420件	・第1 C事前オリエンテーション (Zoom)
11/14(金)		・第2 C事前オリエンテーション (Zoom)
11/17(月)	・DWAT関係者ミーティング(第1回) ・防災無線および町HPにてDWATのことを広報	★第1 C派遣開始(～11/20) ・サイボウズ社 柴田氏 (ICT支援) 同行
11/19(水)		・第3 C事前オリエンテーション (Zoom)
11/20(木)	・ホテル2次避難：4世帯5名 ・断水：全戸解消 ・罹災証明：調査約900件、発行済約580件	★第2 C派遣開始(～11/23) ・第4 C事前オリエンテーション (Zoom)
11/21(金)		・民協定例会にてDWATの説明、協力依頼
11/23(日)		★第3 C派遣開始(～11/26)
11/26(水)	・ホテル二次避難：2世帯2名	★第4 C派遣開始(～11/29) ・広報はちじょう取材対応
11/29(土)	・DWAT関係者ミーティング(第2回)	・活動終了

4. 活動成果と今後に向けた課題



◆活動を通じて感じたこと（*チーム員の活動報告書より一部抜粋）

- フェーズごとにニーズがあり、実際の状況は現地に入ってみないとわからないということを改めて感じた。被災者の方の受け入れは良好で、町が防災無線等でアナウンスしてくれた効果が大きかった。
- 本当に困っている人たちは、自らSOSの声を上げずにその日その日をやり過ごしながら生活していることが被災宅に訪問して垣間見れた。被災宅へアウトリーチをすることの大切さを改めて感じた。
- 八丈町の協力もあり、事前に訪問対象リストができており、DWAT内だけでなく八丈町との情報共有と引継ぎがスムーズだった。アプリも使いやすく、スマホの配布により効率的に活用できた。
- 関係者は夕礼時にDWATが報告したケースのほぼ全部をその場で理解して、その対応についても関係機関間でその場で分野を超え、課題解決の調整を即座にできていることを目の当たりにし、日頃から関係機関がつながり、地域住民を隅々まで理解していることが推察され、大変驚いた。
- DWAT派遣は、発災後の時間の経過とともに課題や依頼内容も変化していくと思うので、メンバーが互いの専門性を尊重し、互いを認め信じあい、コミュニケーションを多くとることが良いチームを作るために必要だと実感した。
- 事務局が現地にいることで、関係機関との関係構築や事務対応がスムーズで、福祉活動に専念できた。ステージの変換期に園崎先生が現地を視察くださったことも、活動の判断における保証になった。

◆東京DWATにおける今後の課題

<活動体制の強化>

- ・初動対応、先遣活動の整理（プッシュ型支援の検討）
- ・意思決定や指示系統の整理（都・東社協との役割分担、ロジスティクスの強化）
- ・DWATとして担う役割、目的の整理
- ・派遣期間設定の考え方、効率的な活動計画の立案
- ・ICTの整備

<平時の活動の充実>

- ・ロジスティクス強化のための研究・研修等
- ・行政、福祉施設、市民に向けた平時からの周知・啓発の徹底
- ・派遣チーム員の経験共有の場づくり
- ・ICT活用のための研修

ご質問やご意見等があれば、
下記事務局までお気軽にお問い合わせください。

東京都災害福祉広域支援ネットワーク 事務局

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 経営支援担当

電話: 03-3268-7192 HP: <https://www.tcsw.tvac.or.jp/saigai-nw/>



災害福祉広域支援NW
ホームページ